

第21回 地域住民参加型防災訓練

取材：一般社団法人 全国建設業協会

北海道帯広市に本社を置く宮坂建設工業株式会社の主催による地域住民参加型の防災訓練が9月26日に北海道帯広市の帯広市中央公園で行われました。訓練は今年で21回目を迎え、行政機関をはじめ、地元の小学生や工業高校の生徒、一般の方々などおよそ2,800人の参加者を募り、消火訓練や土のうづくり、けが人などに対する応急措置の実演などに取り組みました。

この防災訓練は、平成5年から宮坂建設工業が独自に実施していた防災訓練を、平成15年の十勝沖地震発生を機に、地域住民の防災意識高揚と被害軽減を目的として、一般参加型の防災訓練に拡充して現在まで続けられています。

* * *

訓練は、午前9時に北海道各地で震度5強の地震が発生した想定で、本社会議室に災害対策本部を設置し、本社、札幌支店、各工事事務所が連絡を取り合い、河川パトロール、建物点検パトロール、現場点検を実施しました。



災害対策本部（帯広本社）写真右上のテレビモニターは札幌支店の災害対策本部の様子を映し出している

訓練は帯広本社と札幌支店で同時に行われ、本支店間の災害対策本部はテレビ会議システムにより双方の状況が分かる仕組みとなっています。

* * *

午前11時からは、帯広本社は帯広市中央公園で、札幌支店は唹淵川築堤工事事務所でそれぞれ地域住民参加型の訓練を実施しました。

昨年に続いて本会が取材した帯広訓練会場では、双腕作業機によるがれきの撤去作業の実演、水防演習として大型バックホウを使った月の輪工の実演、小学生や高校生による土のうづくり体験、ロープ結び体験、簡易担架実演、三角巾を使った応急措置実演、煙体験や小学生のバケツリレーによる消火活動実演が行われました。中でも子供たちの興味を引いたのが空中撮影システム実演で、カメラが付いた小型の飛行船をラジコンで扱う作業と、空中で撮影された地上の姿がパソコン画面に映し出される様子に人気を集まりました。



社屋の裏にある宮坂建設工業の自家発電システム



◀▲ 空中撮影システム実演



小学生による
バケツリレー▶

この他に、消防車や梯子車、自衛隊の96式装輪装甲車、宮坂建設工業が所有する災害時出動パトロール車の展示なども行われ、普段あまり目にする事のない特殊車両が集まった人々の目を引き付けました。また、炊き出し訓練では来場者にカレーライスが振る舞われました。

* * *

この訓練は一企業が行う防災訓練としてはかなり規模の大きいものであり、平成23年に本会が開催した建設業社会貢献活動推進月間中央行事において、優秀事例として地域貢献活動功労者表彰を受章され、高評価を得ました。

社員はもとより地域住民の防災意識の高揚につながるこのような活動が全国に広がる事が期待されます。



双腕作業機によるがれき撤去作業実演



炊き出し訓練



ロープ結び体験



地震体験



自衛隊の96式装輪装甲車



はしご車